

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670801109
法人名	株式会社ケアサービス鳥海
事業所名	グループホーム まいづる
訪問調査日	平成 19 年 8 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 10 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670801109
法人名	株式会社ケアサービス鳥海
事業所名	グループホーム まいづる
所在地 (電話番号)	山形県酒田市麓字横道10番地8 (電話) 0234-64-3321

評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県山形市松波四丁目1番15号		
訪問調査日	平成19年8月6日	評価確定日	平成19年10月10日

【情報提供票より】(平成19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.2 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造	1階建ての階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円他、実費	
敷金	有() 円	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	85.9 歳	最低	80.5 歳	最高	93.1 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒田市立八幡病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームを運営する会社の理念である「すてきな笑顔が見たい」を基にしながら、「尊厳を守ること」「安心し、快く生活できること」「自立した生活を送れること」「安全で健やかに暮らせること」「なじみの暮らしを継続できること」をケア目標に掲げ、利用者と職員の信頼関係を大切にしている、笑い声が絶えない明るいホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「感染症対策」「職員研修」についての取り組みはみられるが、「入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えていない状況」「入浴の時間と回数がホームの都合で決められている状況」についての改善はまだ行われていない。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	②	<p>評価項目の変更点、各項目のねらいが職員に周知されておらず、自己評価は管理者が2~3名の職員に意見を求めて行った形となっているため、評価のねらいや活用方法を全職員が理解できるように配慮しながら、評価の一連の過程に全職員が関わることにより、評価を活かした具体的な改善に取り組むことが期待される。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度開催され、評価結果、職員の異動の説明がなされている。また、会議の中で夏祭りの「流しそめん」が企画され、利用者サービスにも活かされている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族面会時を利用し常に問いかけ、意見交換をできるようにしている。また、家族会が設けられ家族会協賛の夏祭りでは家族会企画の「流しそめん」も行われている。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区行事、廃品回収等、自治会を通して継続参加ができるようにしたいとの構想はあるがまだ実現されておらず、お祭り、保育園運動会、慰霊祭の単発的な参加にとどまっているため、地域の情報を自ら積極的にキャッチしながら、地域とのつきあいや交流がより深められる取り組みを日常の中で継続していくことが期待される。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームを運営する会社の理念を基にして、職員で考えたケア目標を具体的理念として構築している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア目標を柱に管理者も生活支援を行い、職員と共に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区行事、廃品回収等、自治会を通して継続参加ができるようにしたいとの構想はあるがまだ実現されておらず、お祭り、保育園運動会、慰霊祭の単発的な参加にとどまっている。	○	地域の情報を自ら積極的にキャッチしながら、地域とのつきあいや交流がより深められる取り組みを日常の中で継続していくことが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目の変更点、各項目のねらいが職員に周知されておらず、自己評価は管理者が2～3名の職員に意見を求めて行った形となっている。	○	評価のねらいや活用方法を全職員が理解できるように配慮しながら、評価の一連の過程に全職員が関わることで、評価を活かした具体的な改善に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催され、評価結果、職員の異動の説明がなされている。また、会議の中で夏祭りの「流しそうめん」が企画され、利用者サービスにも活かされている。		

山形県 グループホーム まいづる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者と利用待機者の有無や現在利用されている利用者の生活状況についての電話報告が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員の異動や金銭管理の報告はなされているが、利用者の日々の暮らしや健康状態の定期的な報告はなされておらず、面会時やその都度の電話連絡となっている。	○	家族が知りたい点をも考慮し、報告する内容と方法の検討や写真等を利用した効果的な情報提供の工夫も行いながら、日々の暮らしぶりや健康状態を定期的にすべての利用者家族に報告していく取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時を利用し常に問いかけ、意見交換をできるようにしている。また、家族会が設けられ家族会協賛の夏祭りでは家族会企画の「流しそうめん」も行われている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	介護計画書による引き継ぎの実施、利用者との馴染みの関係が維持できるように、異動は最少限におさえる配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修と3年目を迎える職員のフォローアップ研修を計画しており、他のグループホームの見学も取り入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の介護サービス連絡協議会グループホーム部会があり、意見交換とネットワーク構築に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 利用本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす時間の中で、郷土の風習、戦時中の話の中から生活文化の大切さを教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のきちんとした身なり、長生きしたい、相撲観戦がしたい等の希望や思いは基本シートに記載され把握できるようにしている。個人から聞き取り不十分な時はご家族の意見、希望を記載している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意見や職員全員の意見を聞きながら、3ヶ月ごと検討会を行って介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直し、体調や身体状況に変化がある時はその都度の見直しがなされている。		

山形県 グループホーム まいづる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に沿ったかかりつけ医、ホームの協力医療機関があり、職員の付添いによる受診支援と診察結果の家族への報告が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、ご家族へは、利用時の説明で退院後もホームを利用できることが説明されており、重度化、終末期のあり方についても今後話し合いを行う方向性がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報を守るために職員の誓約書がある。また、利用者の方言に合わせた言葉かけや会話を取り入れて、本人の誇りを損ねることがないように対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れとして、食事時間や入浴予定は利用者にお知らせしているが、買い物、散歩等、利用者の思いに柔軟に対応している。		

山形県 グループホーム まいづる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜をふんだんに取り入れ、下ごしらえから後片付けまでを利用者と職員と一緒にやっている。また、味付けや調理方法について、利用者同士の会話も弾む穏やかな食卓となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個人浴を開始して1ヶ月余りとなるが、ホームの都合によって入浴の曜日や時間帯が決められてしまっている。	○	事業所が決めた曜日や時間帯に合わせるのではなく、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にしたい入浴支援が期待される。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の管理、食事作り、後片付け、清掃など、利用者が力を発揮できる場を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の車イスを他の利用者が押して、職員と共に散歩、買い物に出かけている。また、花見、あじさい見学、紅葉狩り等、季節に合わせて外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	利用者の安全に配慮し、ホームの外に出て行こうとした際は、気分を慨しないようさりげなく行動をともにしており、職員が少なくなる場面以外は、施錠しないようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難場所として、ホーム近くの自治会館を利用できるよう自治会長に依頼しており、通報、消火、集合訓練も年2回実施されている。		

山形県 グループホーム まいづる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに摂取できる適量に違いがあり、それらをチェック表を基に把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた、利用者と職員手作りのペーパークラフト作品やホーム内催しの写真が掲示されており、落ち着いた空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物、テレビ、冷蔵庫などを置いて、自室として過ごしやすい部屋となっている。		